

## じょうせいじ せきとうぐん 「静栖寺の石塔群」

松伏町指定史跡

昭和50年6月1日指定

戦国時代に松伏に土着し、近世初期に松伏領の大開墾事業を行ったとされる豪農石川民部家<sup>いしかわみんぶ</sup>は、静栖寺<sup>じょうせいじ</sup>（田中<sup>たなか</sup>）を菩提寺とし、静栖寺の石塔群はその一族の墓所です。

巨大な宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>と五輪塔<sup>ごりんとう</sup>が林立し、江戸時代初期の慶長<sup>けいちょう</sup>14年（1609）の宝篋印塔が最古で、最も高いものは3mを超えます。また、松伏では珍しい一石五輪塔（ひとつの石から彫り上げた小型の五輪塔）も見られます。石塔群は30基以上からなり、墓石の形態の変遷をうかがうこともできます。



※個人の墓所ですので、見学の際はご配慮下さい。また、地震があった時は速やかに離れるようにして下さい。